

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	株式会社ネクストテラス	代表者	吉田 茂樹	法人・事業所の特徴	利用者一人ひとりの人格を尊重し、利用者が住み慣れた地域で自立した日常生活を営むことができるよう、家庭的な環境と地域住民との交流の下で、心身の特性を踏まえた柔軟なサービスを組み合わせた援助を行い、利用者の日々の暮らしを支援することをその運営方針とする
事業所名	小規模多機能ホームきらり	管理者	吉田 茂樹		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	10人	0人	10人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	自己評価及び外部評価の理解を進め、改善に向けて取り組む。出来ていない項目があれば各職員が改善できるよう努める。	自己評価及び外部評価の理解を進めた。新型コロナウイルスの影響により、地域の方々からの評価を頂く機会を設けることが出来なかった。	自己評価を実施することで改善点を見つけることができた。職種によっては実施できない内容もあるが事業所全体としては概ね全ての項目の実施が出来ている。	自己評価の理解を進めるために、計画内容を閲覧しやすい状況に配置し、また新入職者に事前説明し理解の向上を図る。
B. 事業所のしつらえ・環境	整理整頓や清掃等は日々取り組み利用者にとって快適で清潔な環境を保持する。季節の飾り物や花等の装飾を継続し、利用者、家族、地域の方々にも喜んでいただける環境を保持する。	コロナ禍でも季節感を味わっていただけるようイベントや装飾、整理整頓や清掃を実施できた。地域の方との交流は感染予防のため実施できなかったが、きらり広場では家族や地域の方々の安らぎの場所となるようすることが出来た。	コロナ禍で実行可能なイベントを実施し、家族へLINEやSNS配信により喜んでいただけた。地域の方には花の装飾やクリスマスイルミネーション等により喜んでいただけた。	整理整頓や清掃等は日々取り組み快適で清潔な環境を保持する。季節の飾り物や花等の装飾を継続し、利用者、家族、地域の方々にも喜んでいただける環境を保持する。
C. 事業所と地域のかかわり	ラジオ体操、移動スーパーなど地域の方々との交流できる機会は継続し、新型コロナウイルスを配慮しながら、引き続き地域との良好な関係を継続する。	新型コロナウイルスにより、地域交流は中止としたが、家族や地域の方がきらり内での活動がわかるように玄関先にイベント情報や案内を掲示し、インスタグラムできらりの様子を配信出来た。	新型コロナウイルスにより、地域交流が出来なかった。状況を配慮しながら地域交流の機会の検討を継続し、良好な関係づくりを継続することが出来た。	新型コロナウイルスを配慮しながら、地域交流の機会を設け、良好な関係を継続する。ラジオ体操、移動スーパーなどの地域交流を継続する。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	オンライン会議等を通じた意見交換会を行い、新型コロナウイルス状況を考慮して、認知症カフェや交流会等の参加に取り組む。	地域包括支援センターで開催されている認知症カフェ、地域サロン等は中止となったが、オンライン交流に参加することができた。	今年度は研修もオンライン会議となり、ZOOM等を利用して参加することができた。	電話、オンライン会議等を通じた意見交換会を行い、新型コロナウイルス状況を考慮した認知症カフェや交流会等の参加に取り組む。
E. 運営推進会議を活かした取組み	新型コロナウイルス状況を考慮して運営推進会議開催を再開する。地域包括支援センター、民生委員の方々とも意見交換ができるように交流を継続する。	地域の方々の困り事は、地域包括支援センターと電話にて意見交換、提案をすることができた。運営推進会議はZOOMを利用して開催すること出来た。	ZOOMによる運営推進会議を開くことが出来た。ZOOM利用が出来ない地域の方とは、意見交換できるような関係を保てた。	ZOOMによる運営推進会議を継続開催し、情報発信および意見交換を実施する。
F. 事業所の防災・災害対策	避難行動要支援者の個別計画などで防災知識情報を共有し、防災・災害意識を高める。防災グッズや防災用非常食の備蓄を進める。	避難訓練および防災知識情報提供により、防災・災害意識を高めることができた。避難訓練等で意識の共有化を図ることができた。	新型コロナウイルス感染予防を通じて、また避難訓練を実施することで防災・災害意識を高めることができた。	BCP策定準備を進めることで、防災・災害意識を高める。防災グッズや防災用非常食の備蓄を進める。